

**コマツ**  
**2017年度 第3四半期(4月-12月)**  
**決算説明会**  
**【電話会議】**

**2018年1月31日(水)**

**コマツ出席者**

**代表取締役副社長(兼)CFO 藤塚 主夫**  
**常務執行役員経営管理部長 稲垣 泰弘**

**I. 2017年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要 <P4-P14>**

- P4-6 : 2017年度第3四半期(10-12月)の概況  
P7-8 : 2017年度第3四半期(4-12月)の概況  
P9-11 : <建設機械・車両> 2017年度第3四半期(4-12月)の状況、KMC\*の概況  
P12 : <リテールファイナンス> 2017年度第3四半期(4-12月)の状況  
P13 : <産業機械他> 2017年度第3四半期(4-12月)の状況  
P14 : 連結貸借対照表

**II. 2017年度の見通し <P16-P25>**

- P16 : 2017年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)  
P17-22 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)  
P23-24 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要・売上高の見通し  
P25 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

**参考資料 <P27-P34>**

- P27-31 : 四半期毎の状況  
P32-34 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

\* KMCはコマツマイニング(Komatsu Mining Corp.)を示す。

## I . 2017年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要

### 注記

2017年4月5日、ジョイ・グローバル社(Joy Global Inc.)の買収が完了しました。

その後、4月19日に商号をコマツマイニング (Komatsu Mining Corp. (以下KMC) ) に変更しています。

2017年度第1四半期の決算数値より、連結子会社となったKMCの業績が含まれています。

- ・連結売上高は前年同期比+50.2%増収の6,468億円。
- ・営業利益は前年同期比+76.1%増益の755億円。売上高営業利益率は同+1.7ポイント増の11.7%。
- ・純利益は前年同期比+73.0%増益の533億円。

金額単位：億円	2016年10-12月	2017年10-12月			前年同期比	
	¥106.9/USD ¥116.7/EUR ¥15.7/RMB	¥113.0/USD ¥133.2/EUR ¥17.0/RMB	*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	4,305	6,468	5,614	853	+2,162	+50.2%
セグメント利益	436	871	824	*2 46	+435	+99.9%
その他の営業収益(▲費用)	▲7	▲115	▲117	1	▲108	-
営業利益	428	755	707	*2 48	+326	+76.1%
売上高営業利益率	10.0%	11.7%	12.6%	5.7%	+1.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	22	▲43			▲66	-
税引前純利益	451	712			+260	+57.7%
純利益*3	308	533			+224	+73.0%

\*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント利益および営業利益には右記の一時費用の影響が含まれている。

\*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

PPAによる償却費 ※	▲36億円
スタートアップ費用ほか	▲4億円
合計	▲41億円

※ PPAはPurchase Price Allocation  
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略  
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

- 為替レートは、1ドル:113.0円、1ユーロ:133.2円、1元:17.0円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円安となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円安となりました。
- 連結売上高は、前年同期比+50.2%増収の6,468億円、営業利益は+76.1%増益の755億円となりました。営業利益率は+1.7ポイント増の11.7%です。
- 連結売上高は、円安以外に、建設機械・車両セグメントにおける物量増およびKMCの新規連結の影響が大きく、増収となりました。
- 純利益は+73.0%増益の533億円です。



- ・建設機械・車両部門の売上高は+56.8%増収の5,945億円。セグメント利益は+106.0%増益の801億円。セグメント利益率は+3.2ポイント改善し 13.5%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+16.6%増収の147億円。セグメント利益は+19.3%増益の30億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年同期並みの423億円。セグメント利益は+79.9%増益の43億円。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年10-12月		2017年10-12月		前年同期比		
					増減	増減率	
売上高	4,305	6,468	5,614	853	+2,162	+50.2%	
建設機械・車両	(3,766)	3,790	(5,917)	5,945	(+2,151)	+2,154 (+57.1%) +56.8%	
リテールファイナンス	(120)	126	(130)	147	(+10)	+20 (+8.9%) +16.6%	
産業機械他	(419)	422	(419)	423	(▲0)	+0 (▲0.0%) +0.2%	
消去	▲33	▲47	▲47	-	▲13	-	
セグメント利益	10.1%	436	13.5%	871	14.7%	824 5.5%	46 +435 +99.9%
建設機械・車両	10.3%	389	13.5%	801	14.8%	755 5.5%	46 +412 +106.0%
リテールファイナンス	20.2%	25	20.6%	30	20.6%	30	- +4 +19.3%
産業機械他	5.7%	23	10.2%	43	10.2%	43	- +19 +79.9%
消去または全社	▲2	▲4	▲4	-	▲1	-	

各セグメントの状況：

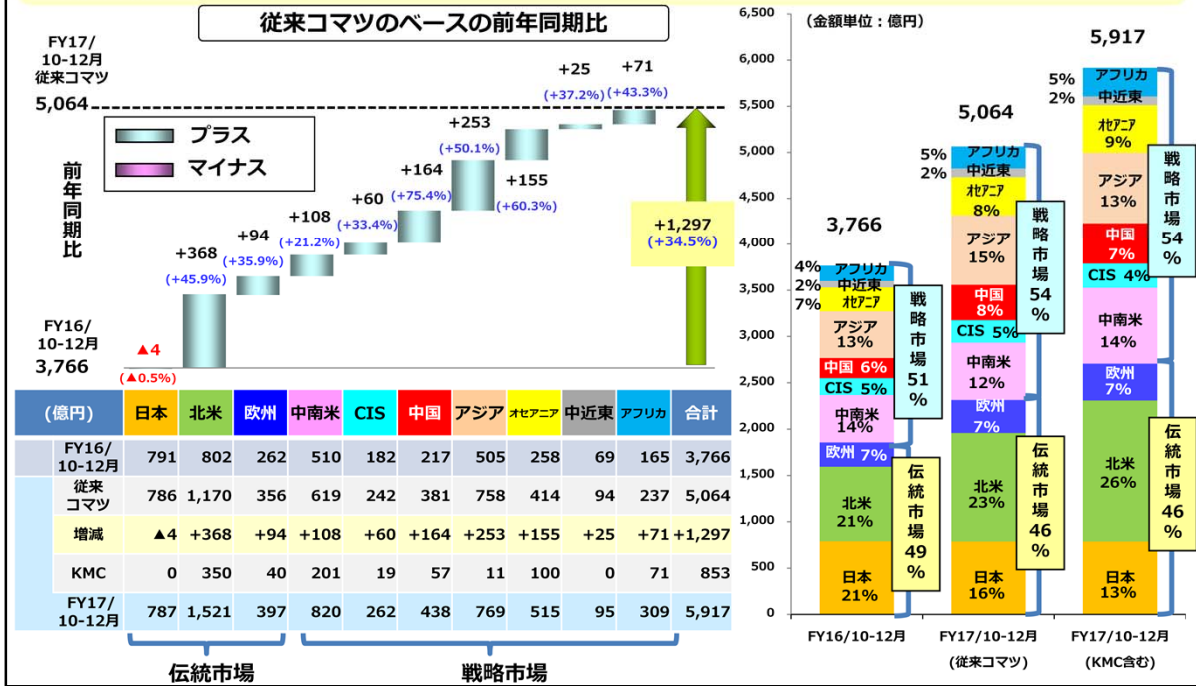
- 建設機械・車両  
北米・中国・アジア・オセアニアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収増益。
- リテールファイナンス  
主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益。
- 産業機械他  
売上高は前年同期並み。自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。

□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+56.8%増収の5,945億円、セグメント利益は+106.0%増益の801億円となりました。北米、中国、アジア、オセアニアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収増益となりました。

□リテールファイナンスの売上高は、前年同期比+16.6%増収の147億円、セグメント利益は+19.3%増益の30億円となりました。主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益となっています。

□産業機械他の売上高は、前年同期並みの423億円、セグメント利益は+79.9%増益の43億円となりました。ワイヤーソーの販売減少があったものの、自動車業界向けの工作機械の販売が増加し、増益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+57.1%増収の5,917億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高では前年同期比+34.5%増収の5,064億円。
- ・従来コマツでは、日本を除く地域で売上高が増加。特に、北米・中国・アジア・オセアニアでの売上高が増加。
- ・戦略市場の比率は54%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率も54%)



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+57.1%増収の5,917億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高では前年同期比+34.5%増収の5,064億円となりました。

□従来コマツでは、日本を除く地域で売上高が増加。特に、北米・中国・アジア・オセアニアでの売上高が増加しました。

□従来コマツの売上高、およびKMCを含む全体の売上高に占める戦略市場比率はともに54%となりました。

- ・連結売上高は前年同期比+47.2%増収の1兆8,058億円。
- ・営業利益は前年同期比+75.8%増益の1,881億円。売上高営業利益率は同+1.7ポイント増の10.4%。
- ・純利益は前年同期比+126.9%増益の1,550億円。

金額単位：億円	2016年4-12月	2017年4-12月			前年同期比	
	¥106.5/USD ¥118.5/EUR ¥16.0/RMB	¥111.7/USD ¥128.2/EUR ¥16.6/RMB	*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	12,267	18,058	15,694	2,363	+5,790	+47.2%
セグメント利益(▲損失)	1,078	2,008	2,160	*2 ▲152	+930	+86.3%
その他の営業収益(▲費用)	▲8	▲126	▲127	0	▲118	-
営業利益(▲損失)	1,070	1,881	2,033	*2 ▲151	+811	+75.8%
売上高営業利益率(▲損失率)	8.7%	10.4%	13.0%	▲6.4%	+1.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲37	271			+309	-
税引前純利益	1,032	2,153			+1,120	+108.5%
純利益*3	683	1,550			+867	+126.9%

\*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

\*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

※ PPAは Purchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

PPAによる償却費 ※	▲367億円
スタートアップ費用ほか	▲41億円
合計	▲408億円

□為替レートは、1ドル:111.7円、1ユーロ:128.2円、1元:16.6円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円安となりました。

□連結売上高は、前年同期比+47.2%増収の1兆8,058億円、営業利益は+75.8%増益の1,881億円となりました。営業利益率は+1.7ポイント増の10.4%です。

□純利益は+126.9%増益の1,550億円です。

□連結売上高は、円安以外に、建設機械・車両セグメントにおける物量増およびKMCの新規連結の影響が大きく、増収となりました。

□営業利益については、KMCの一時費用のうち特に上期に計上された分の影響が大きく、KMCは営業損失となりましたが、従来コマツの方で利益が拡大した結果、全体として増益となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+53.9%増収の1兆6,589億円。セグメント利益は+90.5%増益の1,839億円。セグメント利益率は+2.1ポイント改善し、11.1%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+27.3%増収の459億円。セグメント利益は+32.3%増益の89億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期並みの1,214億円。セグメント利益は+41.7%増益の91億円。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年4-12月		2017年4-12月		前年同期比							
			従来コマツ	KMC	増減	増減率						
売上高	12,267	18,058	15,694	2,363	+5,790	+47.2%						
建設機械・車両	(10,719)	10,777	(16,486)	16,589	(14,123)	14,226	(2,363)	2,363	(+5,767)	+5,812	(+53.8%)	+53.9%
リテールファイナンス	(343)	361	(367)	459	(367)	459	-	-	(+24)	+98	(+7.2%)	+27.3%
産業機械他	(1,204)	1,212	(1,204)	1,214	(1,204)	1,214	-	-	(▲0)	+2	(▲0.1%)	+0.2%
消去	▲83		▲206		▲206		-	-	▲122		-	
セグメント利益(▲損失)	8.8%	1,078	11.1%	2,008	13.8%	2,160	▲6.4%	▲152	+930	+86.3%		
建設機械・車両	9.0%	965	11.1%	1,839	14.0%	1,991	▲6.4%	▲152	+874	+90.5%		
リテールファイナンス	18.7%	67	19.5%	89	19.5%	89	-	-	+21	+32.3%		
産業機械他	5.3%	64	7.5%	91	7.5%	91	-	-	+26	+41.7%		
消去または全社	▲19		▲11		▲11		-	-	+7	-		

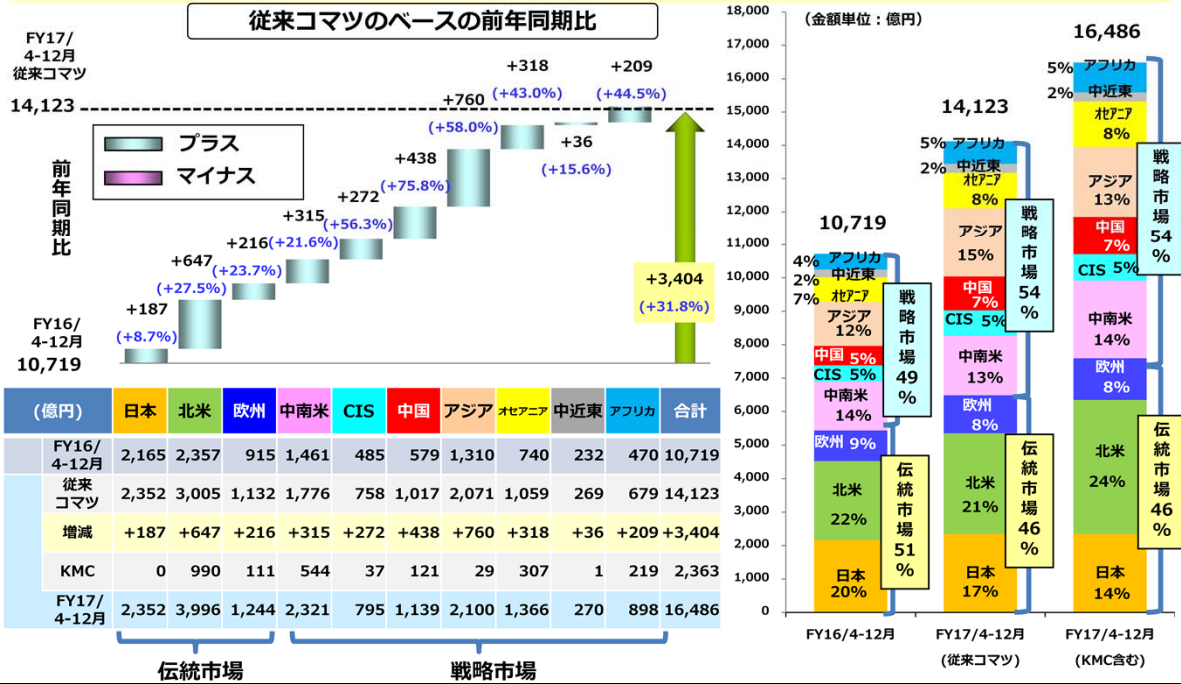
各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
北米・中国・アジアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収。利益面はKMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失となったが、従来コマツの方で利益が拡大した結果、全体として増益。
- リテールファイナンス  
主に北米での資産の増加などに伴い増収。利益面も前年同期に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなったことから増益。
- 産業機械他  
売上高は前年同期並み。自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。

- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比+53.9%増収の1兆6,589億円、セグメント利益は+90.5%増益の1,839億円となりました。北米・中国・アジアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収となりました。利益面は、KMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失ですが、従来コマツの方で利益が拡大した結果、全体として増益となりました。
- リテールファイナンスの売上高は、前年同期比+27.3%増収の459億円、セグメント利益は+32.3%増益の89億円となりました。主に北米での資産の増加などに伴い、増収となりました。利益面は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となっています。
- 産業機械他の売上高は、前年同期並みの1,214億円、セグメント利益は+41.7%増益の91億円となりました。ワイヤソーの販売減少があったものの、自動車業界向けの工作機械の販売が増加し、増益となりました。

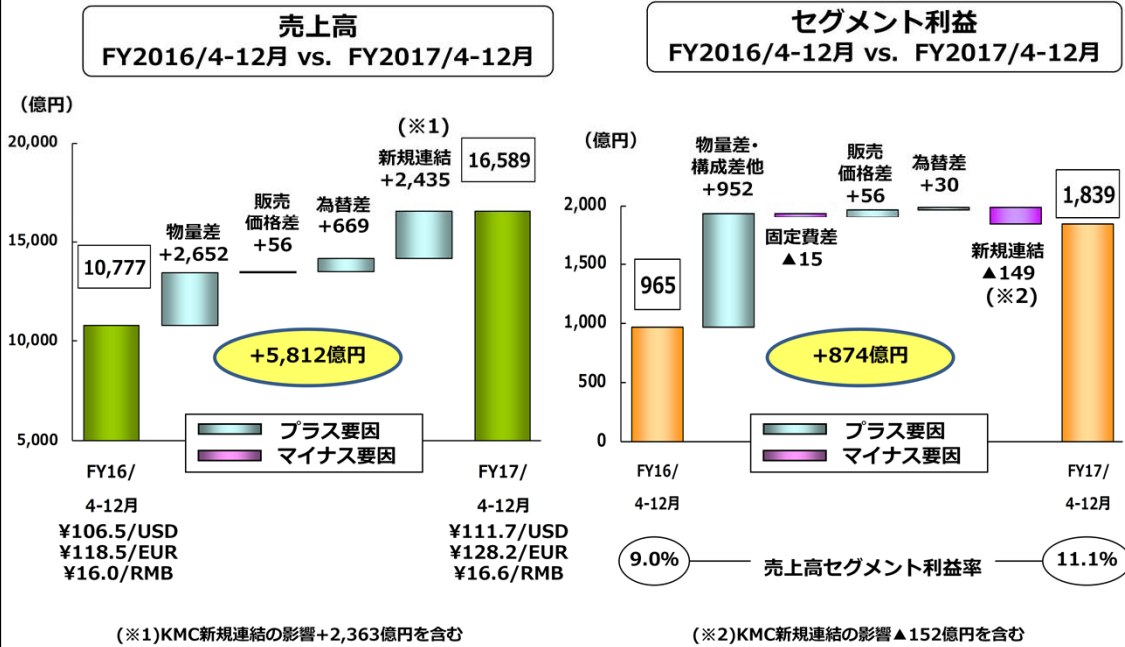


- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+53.8%増収の1兆6,486億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は前年同期比+31.8%増収の1兆4,123億円。
- ・従来コマツの売上高は、すべての地域で売上高が増加。特に、北米・中国・アジアでの売上高が増加。
- ・戦略市場の比率は54%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率も54%)



- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比+53.8%増収の1兆6,486億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は前年同期比+31.8%増収の1兆4,123億円となりました。
- 従来コマツの売上高は、すべての地域で増加。特に、北米・中国・アジアでの売上高が増加しました。
- 従来コマツの売上高、およびKMCを含む全体の売上高に占める戦略市場比率はともに54%となりました。

- ・売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+5,812億円の増収。
- ・セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの、全体としては+874億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+2.1ポイント増の11.1%。



□売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+5,812億円の増収となりました。

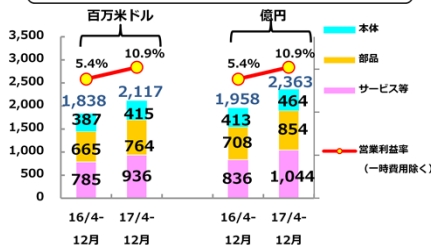
□セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの、全体としては+874億円の増益となり、売上高セグメント利益率は前年同期比+2.1ポイント改善し、11.1%となりました。

- ・売上高は、前年同期比+20.7%増収の2,363億円。
- ・一時費用を除く営業利益は256億円。一時費用▲408億円を含めると▲151億円の営業損失。

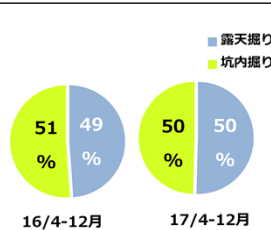
(金額単位：億円)	2016年4-12月 (参考)※1 (¥106.5/USD)		2017年4-12月 (¥111.7/USD)		前年同期比(参考)	
					増減	増減率
売上高	1,958		2,363		+404	+20.7%
本体	413		464		+51	+12.4%
部品	708		854		+146	+20.6%
サービス等	836		1,044		+208	+24.9%
営業利益 <一時費用を除く>	5.4%	104	10.9%	256	+152	+145.6%
一時費用 (マイナスで表記)		▲93		▲408	▲314	-
PPAによる償却費 ※2		-	※3	▲367	▲367	-
スタートアップ費用ほか		▲93		▲41	+52	-
営業利益 (▲損失) <一時費用を含む>	0.6%	10	▲6.4%	▲151	▲162	-

※1：前年同期である2016年4-12月(コマツの決算期に組替)の数値を参考に記載している。  
 ※2：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き  
 ※3：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円(上期に計上済)

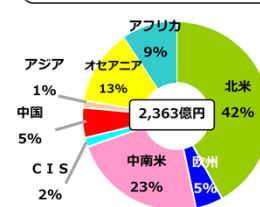
四半期別売上高・営業利益率の推移



セグメント別売上高



FY17/4-12月地域別売上高 (外部顧客向け)



□前年同期である2016年4月-12月の数値を、コマツの決算期に組み替えて表示しています。当社の連結決算にはまだ入っていない時期の数値です。

□2017年度第3四半期(9カ月)のKMCの売上高は、前年同期比+20.7%増収の2,363億円となりました。うち、本体は前年同期比+12.4%増の464億円、部品は前年同期比+20.6%増の854億円、サービス等は前年同期比+24.9%増の1,044億円という状況です。

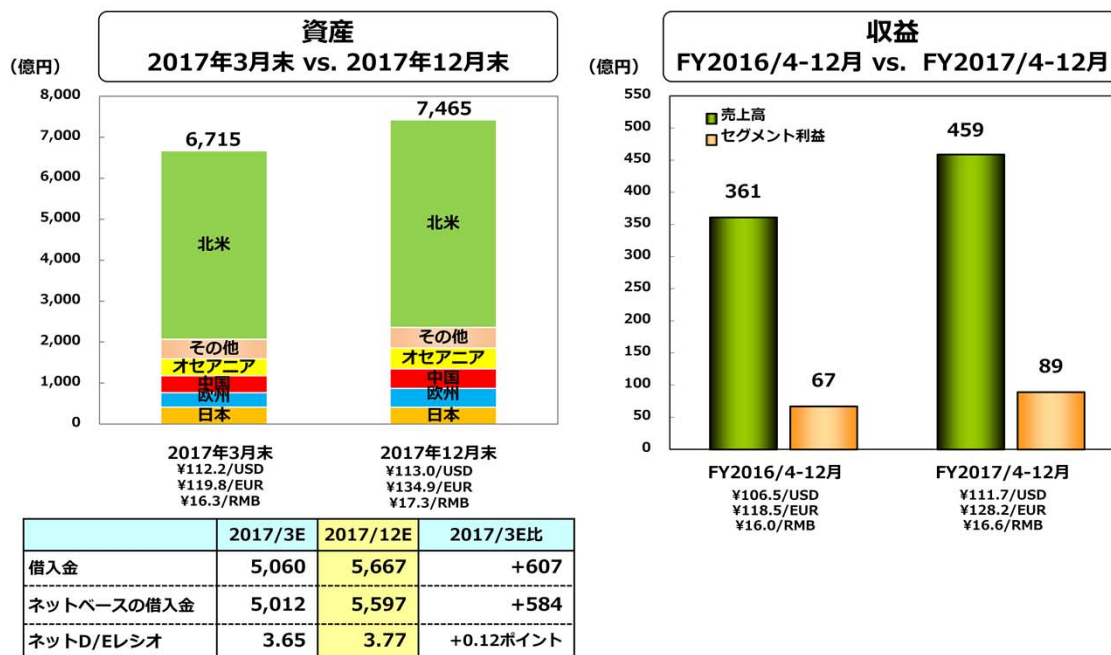
□一時費用を除く営業利益は256億円です。一時費用▲408億円を含めると▲151億円の営業損失となりました。

□PPA (Purchase Price Allocation) による償却費は▲367億円となり、そのうち棚卸資産に係る金額は▲258億円です。なお、この棚卸資産に係る償却費については上期中に全額計上されています。

□セグメント別の売上高比率は、露天掘りが50%、坑内掘りは50%でした。

□地域別売上高のうち、北米の割合は42%です。

- ・資産は主に北米等でファイナンス契約が増加したことにより増加。
- ・収益は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益。

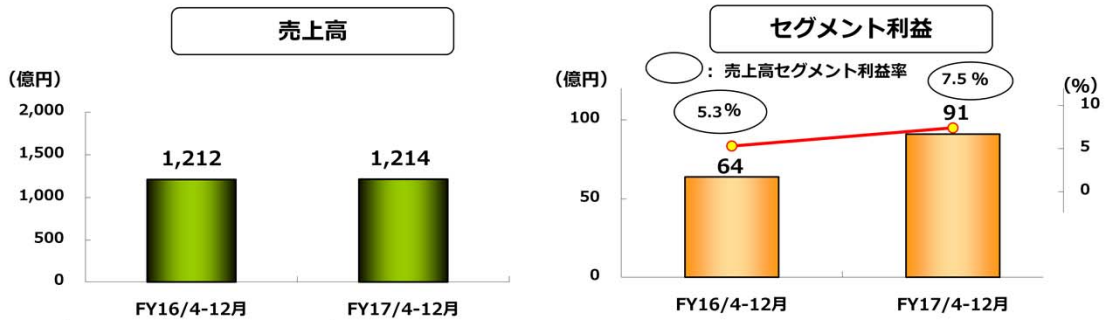


□リテールファイナンスの資産は、主に北米等でファイナンス契約が増えたことにより増加しました。

□収益については、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となりました。



- ・売上高は前年同期並みの1,214億円。
- ・自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。売上高セグメント利益率は7.5%。



金額単位：億円	FY16/ 4-12月	FY17/ 4-12月	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	365	327	▲37	▲10.3%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	335 [86]	432 [48]	+97 [▲37]	+29.1% [▲43.6%]
ギガフォトン	233	272	+38	+16.3%
その他	278	183	▲95	▲34.4%
合計	1,212	1,214	+2	+0.2%

□産業機械他部門の売上高は、前年同期並みの1,214億円となりました。

□セグメント利益は前年同期比+27億円増益の91億円、セグメント利益率は前年同期比で+2.2ポイント増の7.5%となりました。ワイヤーソーの販売減少があったものの、自動車業界向けの工作機械の販売が増加し、増益となりました。

- ・総資産はKMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+8,035億円の増加。
- ・借入金・社債については、KMC買収等により、前年度末比で+4,760億円増加の8,847億円。
- ・株主資本比率は前年度末比▲10.7ポイント減の48.7%。

(金額単位：億円)	2017年3月末 ¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥ 16.3/RMB	2017年12月末 ¥113.0/USD ¥134.9/EUR ¥ 17.3/RMB	増減	2017年12月末 KMC 新規連結の影響
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,221	1,677	+456	235
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	9,332	11,390	+2,058	858
棚卸資産	5,338	7,574	+2,235	1,144
有形固定資産	6,790	7,678	+888	848
その他資産	3,881	6,278	+2,396	2,786
<b>資産合計</b>	<b>26,564</b>	<b>34,599</b>	<b>+8,035</b>	<b>5,872</b>
支払手形・買掛金	2,401	3,033	+632	319
借入金・社債 [b]	4,087	8,847	+4,760	1,283
その他負債	3,591	5,053	+1,462	1,080
<b>負債合計</b>	<b>10,079</b>	<b>16,934</b>	<b>+6,854</b>	<b>2,682</b>
(株主資本比率)	(59.4%)	(48.7%)	(▲10.7ポイント)	
株主資本	15,766	16,849	+1,082	
非支配持分	718	815	+97	
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>26,564</b>	<b>34,599</b>	<b>+8,035</b>	
▶ 社債の借入金・社債 [b-a]	2,865	7,164	+4,304	
▶ 社債/E/E	0.18	0.43		

□総資産は前年度末比で+8,035億円増加しました。KMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴うものです。KMCの新規連結と為替の影響を除いた従来コマツの実質差は+1,532億円の増加です。

□棚卸資産については、前年度末比で+2,235億円増加しました。KMCの新規連結と為替の影響を除いた従来コマツの実質差は+892億円の増加です。

□借入金・社債は、KMC買収等により、前年度末比で+4,760億円増加の8,847億円となりました。KMCの借入金・社債の残高は1,283億円です。

□株主資本比率は前年度末比▲10.7ポイント減の48.7%となりました。

## Ⅱ. 2017年度の見通し

・これまで9ヵ月間の全社の売上高・利益は見通しに対して強めにしている状況であり、この状況は第4四半期も継続すると見ているが、第4四半期の為替や中国の春節明けの需要動向なども考慮し、今回、年間の業績見通しについては変更していない。(以下に昨年10月の公表値を掲載)

金額単位：億円	2016年度 (A) ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	2017年度 見通し(10月) (B) ¥108.0/USD ¥124.4/EUR ¥16.0/RMB	2017年度 見通し(10月)		2017年度 見通し(期初) (C) ¥105.0/USD ¥115.0/EUR ¥15.0/RMB	2017年度 見通し(期初)		前年比(B-A)	
			従来コマツ *1	KMC		従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	21,350	18,800	2,560	+5,250	+29.1%
セグメント利益(▲損失)	1,765	2,360	2,560	*2 ▲200	1,640	2,030	*2 ▲390	+594	+33.7%
その他の営業収益(▲費用)	▲24	▲200	▲200	-	▲80	▲80	-	▲175	-
営業利益(▲損失)	1,740	2,160	2,360	*2 ▲200	1,560	1,950	*2 ▲390	+419	+24.1%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.7%	9.3%	11.6%	▲6.9%	7.3%	10.4%	▲15.2%	▲0.4% <sup>※</sup> イト	-
その他の収益(▲費用)	▲76	210			▲150			+286	-
税引前純利益	1,664	2,370			1,410			+705	+42.4%
純利益*3	1,133	1,590			920			+456	+40.2%
ROE	7.3%	10.1%			5.9%			+2.8% <sup>※</sup> イト	
1株当たり配当金(円)	58円	72円			58円			+14円	
連結配当性向	48.2%	42.7%			59.5%				

※ PPAは Purchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

\*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

\*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

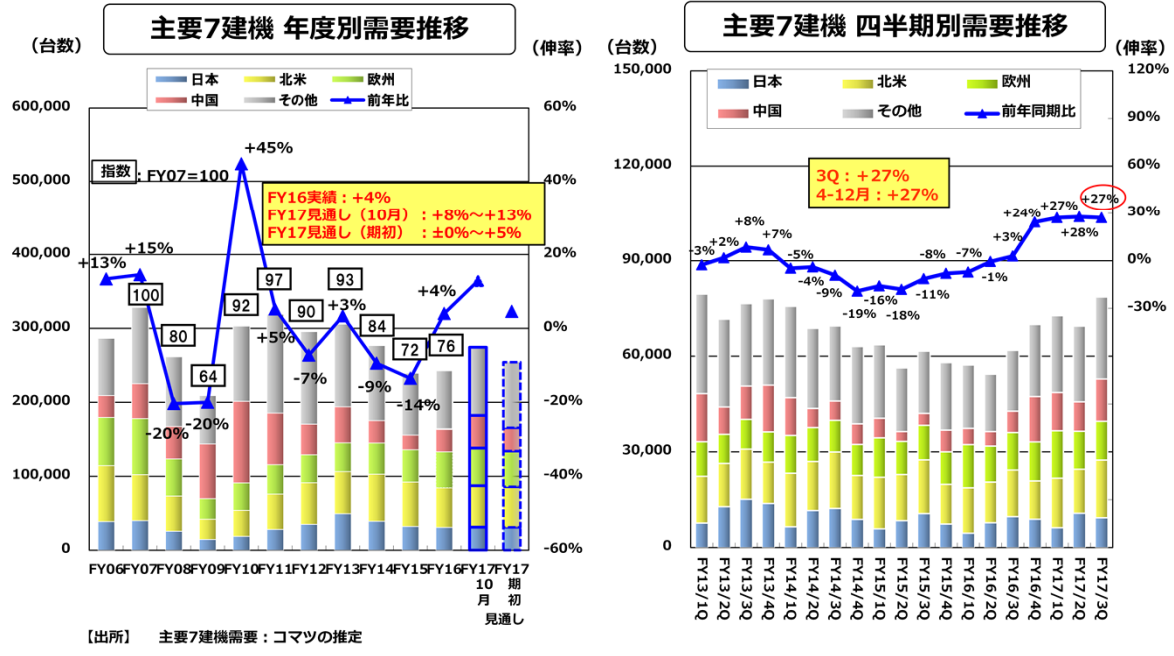
	17年度 見通し(10月)	17年度 見通し(期初)
PPAによる償却費 ※	▲400億円	▲390億円
スタートアップ費用ほか	▲60億円	▲90億円
合計	▲460億円	▲480億円

これまで9ヵ月間の全社の売上高・利益は見通しに対して強めにしている状況であり、この状況は第4四半期も継続すると見っていますが、第4四半期の為替や中国の春節明けの需要動向なども考慮し、今回、年間の業績見通しについては変更しておりません。

16ページの資料については、昨年10月の公表値を掲載しています。

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2017年度第3四半期(3ヶ月および累計)の需要は、前年同期比+27%増加。
- ・主要7建機の需要は、全体として前年同期比で増加している状況であり、北米を中心にこの傾向は第4四半期も続くと考えているが、今回、年間需要については、10月公表から見通しを変更していない。



□主要7建機および鉱山機械の需要につきましては、従来コマツのベースでの推移を表しています。数字については当社推定の速報値です。17ページから23ページまでが該当します。

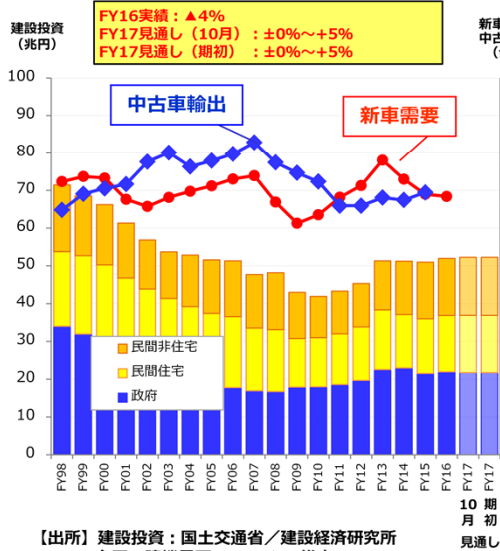
□2017年度第3四半期(3ヶ月および累計)の需要は、前年同期比+27%の増加となりました。

□主要7建機の需要は、全体として前年同期比で増加している状況であり、北米を中心にこの傾向は第4四半期も続くと考えていますが、今回、年間需要については、10月公表から見通しを変更していません。

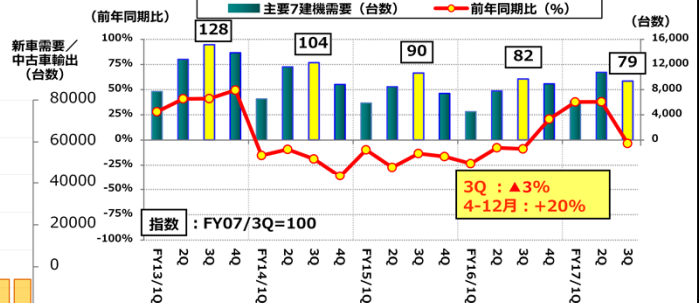
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

- ・ 2017年度第3四半期の需要は、前年同期比▲3%減少。
- ・ 国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減などにより新車需要が減少。

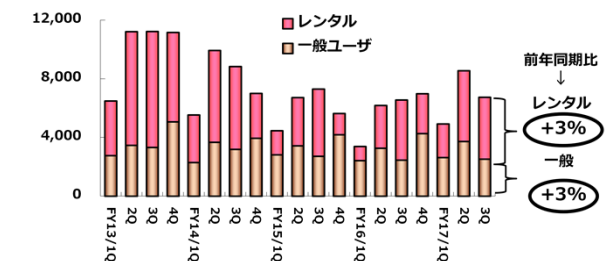
新車需要（主要7建機）と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移



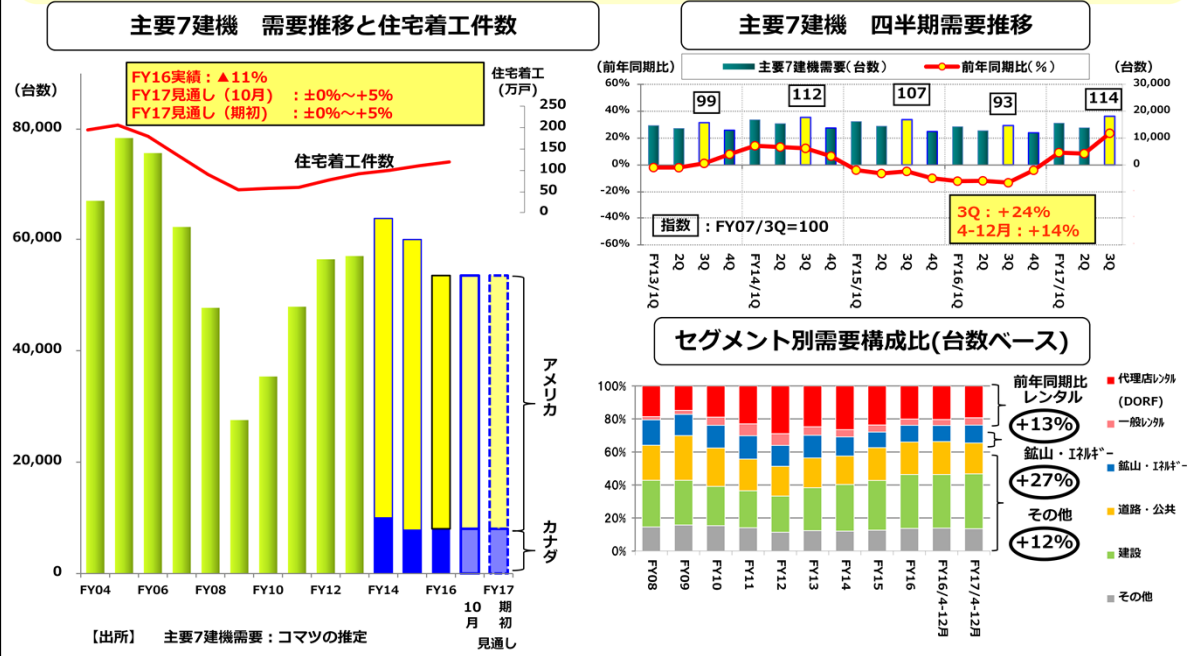
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



- 2017年度第3四半期の日本の需要台数は、前年同期同期比▲3%の減少となりました。
- 国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減などにより新車需要が減少しました。
- 2017年度第3四半期累計の需要は、前年同期比+20%増加です。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・ 2017年度第3四半期の需要は、前年同期比+24%増加。
- ・ アメリカにおいて、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加。
- ・ 需要は前年同期比で増加しており、第4四半期も同様な状況が続くと見ている。



□ 2017年度第3四半期の北米の需要は、前年同期比で+24%増加となりました。

□ アメリカでは、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加しました。

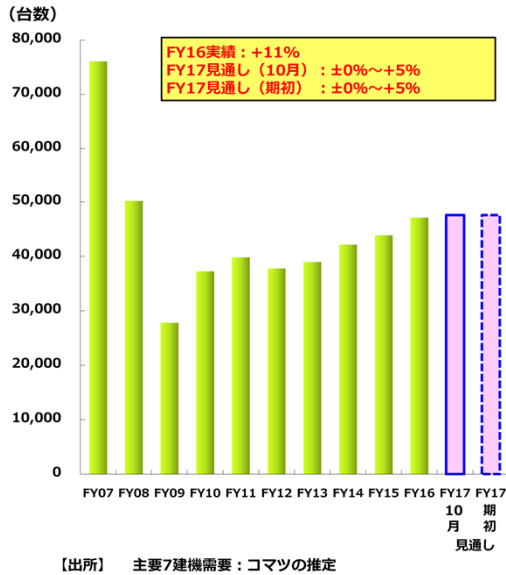
□ 2017年度第3四半期累計の需要は、前年同期比+14%増加です。

□ 需要は前年同期比で増加しており、第4四半期も同様な状況が続くと見えています。

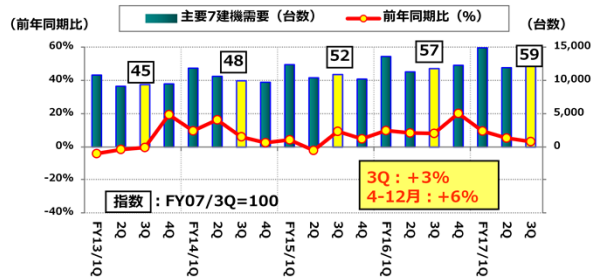


- ・ 2017年度第3四半期の需要は、前年同期比+3%増加。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツを中心に堅調に推移。

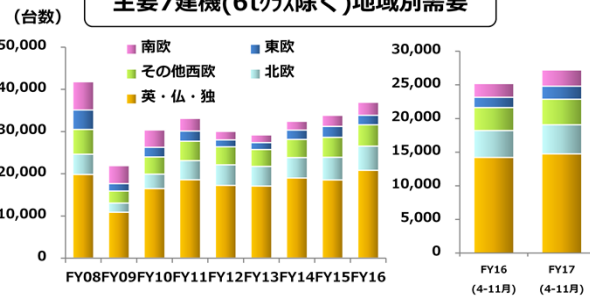
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



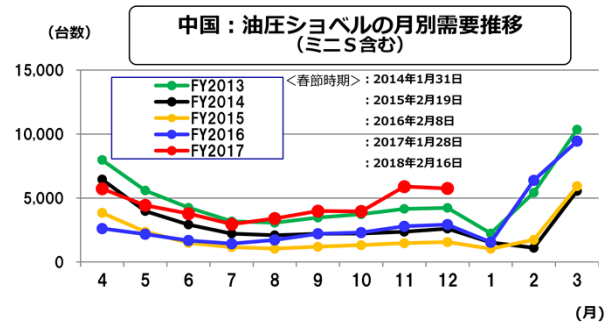
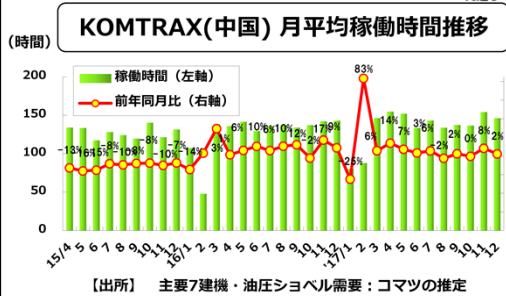
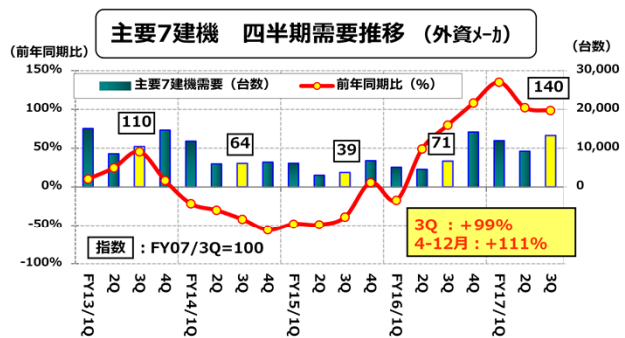
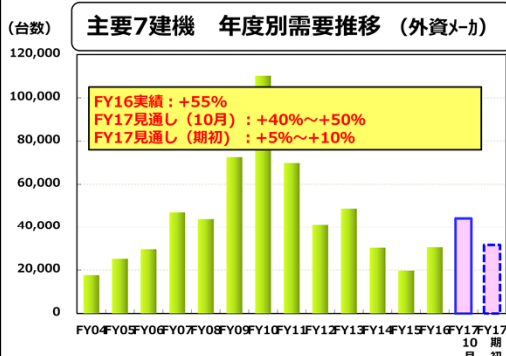
□2017度第第3四半期の需要は、前年同期比+3%増加となりました。

□引き続き主要市場であるドイツを中心に堅調に推移しました。

□2017年度第3四半期累計の需要は、前年同期比+6%増加です。



- ・ 2017年度第3四半期の需要は、前年同期比+99%増加。
- ・ 引き続きインフラ工事が進行し、一般建機の需要が増加。

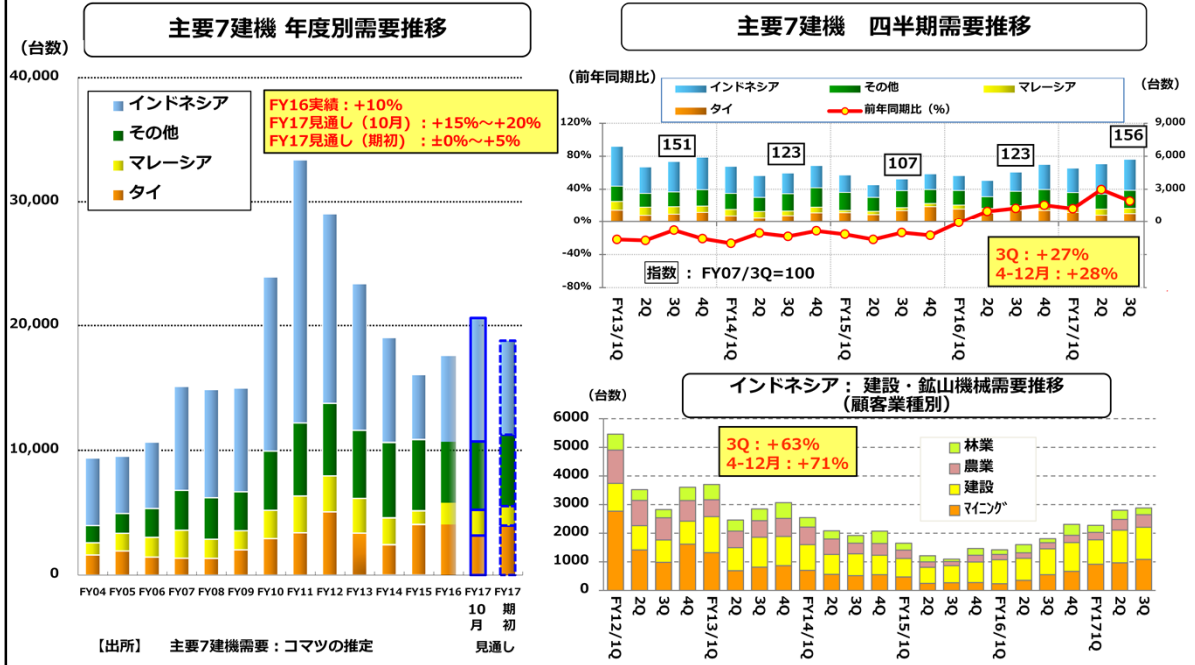


□2017年度第3四半期の中国の需要は、全国的にインフラ工事が進行している影響を受け、前年同期比+99%増加となりました。四半期ベースでは、2016年度第2四半期から需要は対前年でプラスが継続しています。

□足元の中国市場については、全国的にインフラ工事が進行していることから新車需要が増加しています。今後は、春節明けの需要動向を注視していきます。

□2017年度第3四半期累計の需要は、前年同期比+111%増加です。

- ・2017年度第3四半期の需要は、前年同期比+27%増加。
- ・最大市場のインドネシアで、特にマイニングの需要が増加。



□ 2017年度第3四半期の東南アジアの需要は、前年同期比+27%増加となりました。

□ 最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加しました。

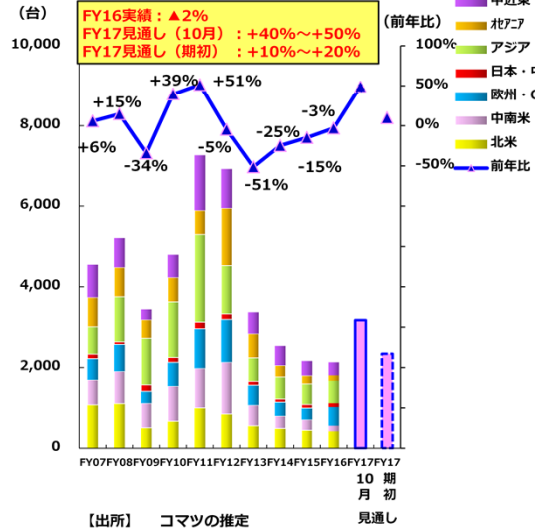
□ 2017年度第3四半期累計の需要は、前年同期比+28%増加です。

<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

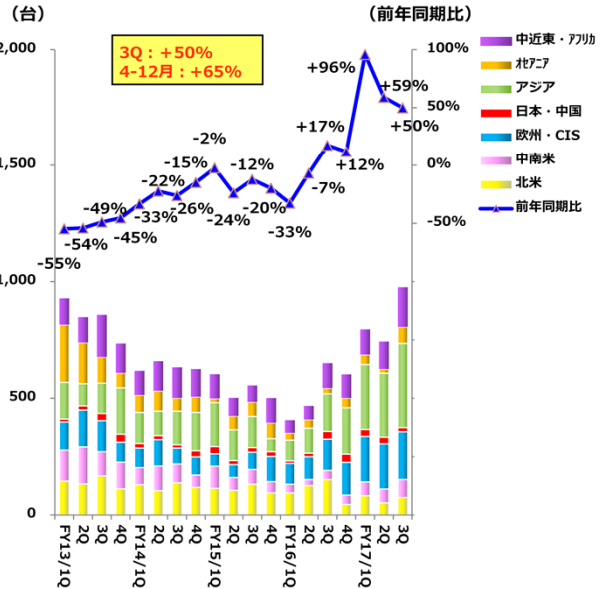
- ・2017年度第3四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+50%増加。
- ・引き続きインドネシアなどで需要が増加。
- ・年間の需要は、10月公表時の見通しから変更なし。

鉱山機械 年度別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブルドーザー：525HP (D375) 以上
- ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上
- ・モーターレータ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移



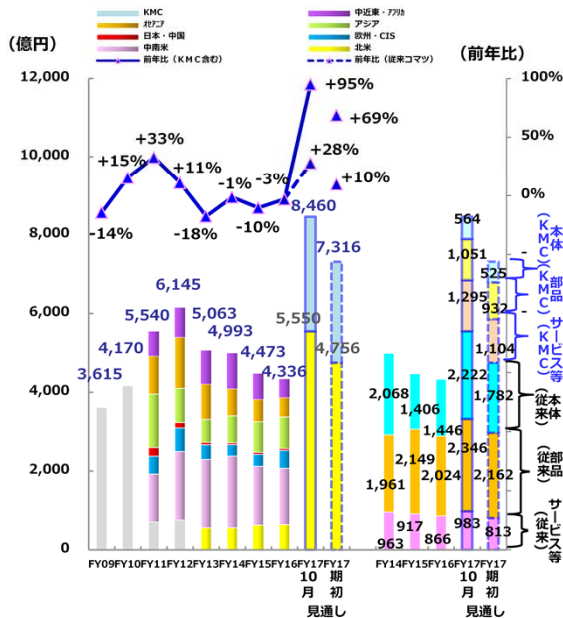
□2017年度第3四半期の鉱山機械の需要は前年同期比+50%増加となりました。

□引き続きインドネシアなどで需要が増加しています。

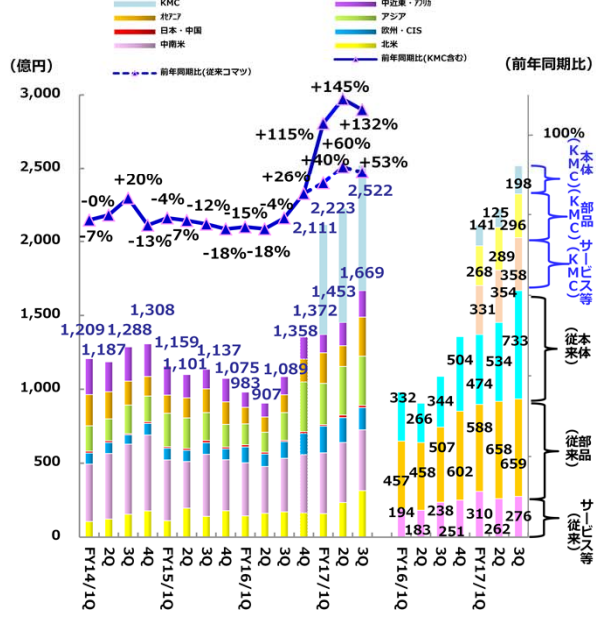
□年間の需要は、10月公表時の見通しから変更ありません。

- ・2017年度第3四半期の売上高は、前年同期比+132%増加の2,522億円。KMCを除く従来コマツの売上高は前年同期比+53%増加の1,669億円。
- ・従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が増加。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



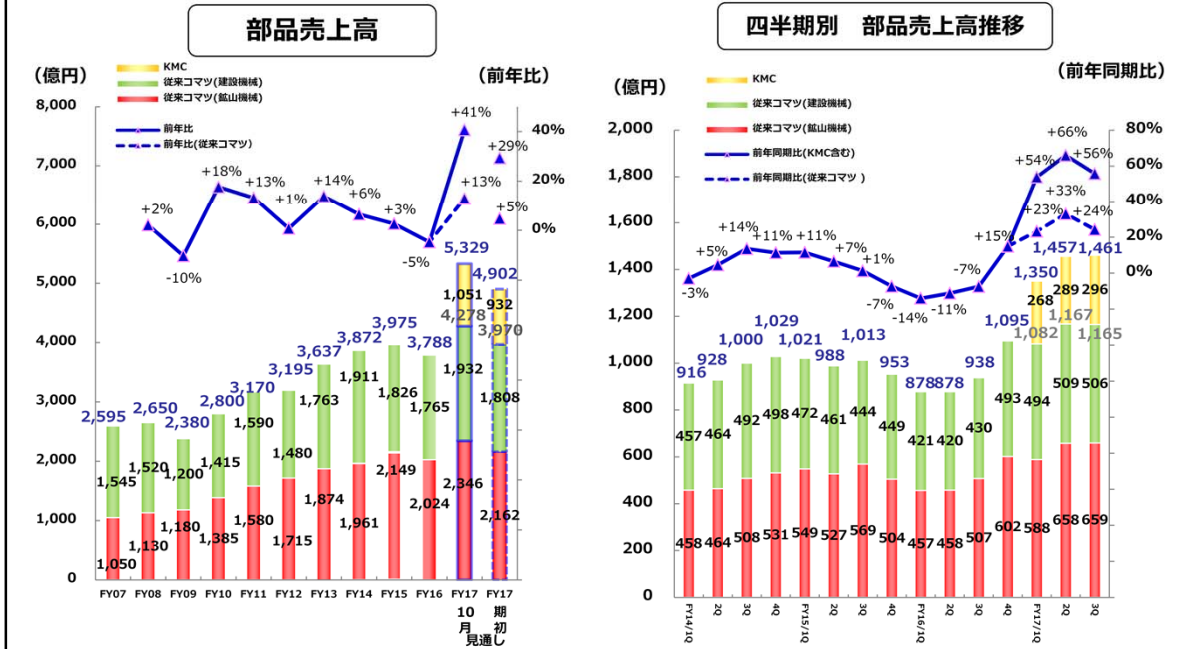
□当ページでは、2017年度からKMCを含めた鉱山機械の売上高を表しています。

□棒グラフの見方ですが、左側の年度別売上高、右側の四半期別売上高、それぞれ2017年度については、KMCの売上高を上乗せして表示しています。折れ線グラフの方は、2017年度について、実線はKMCを含むベース、点線は従来コマツの伸び率を表示しています。

□2017年度第3四半期の売上高は、全体として、前年同期比+132%増加の2,522億円となりました。KMCを除く従来コマツの売上高は前年同期比+53%増加の1,669億円という状況です。

□従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が増加しました。

- ・ 2017年度第3四半期の部品売上高は、前年同期比+56%増加の1,461億円。KMCを除く従来コマツの売上高では+24%増加の1,165億円。
- ・ アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが前年同期比で増加。



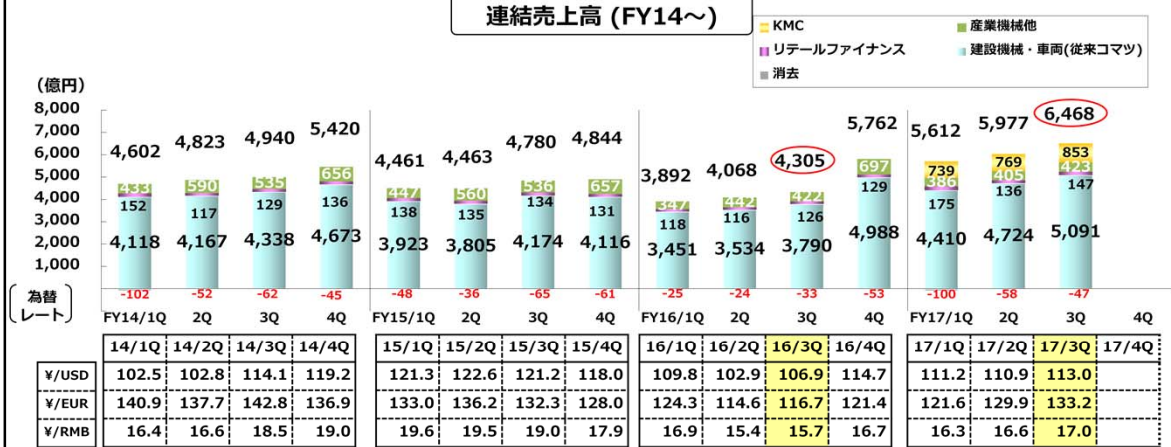
□2017年度第3四半期の部品の売上高は、前年同期比+56%増加の1,461億円となりました。従来コマツの売上高は+24%増加の1,165億円です。

□アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上が増加しています。

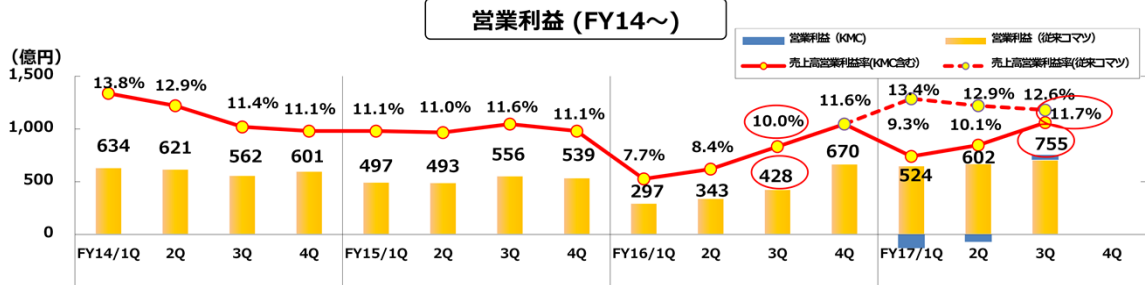
**参考資料**

【参考資料】  
四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY14~)

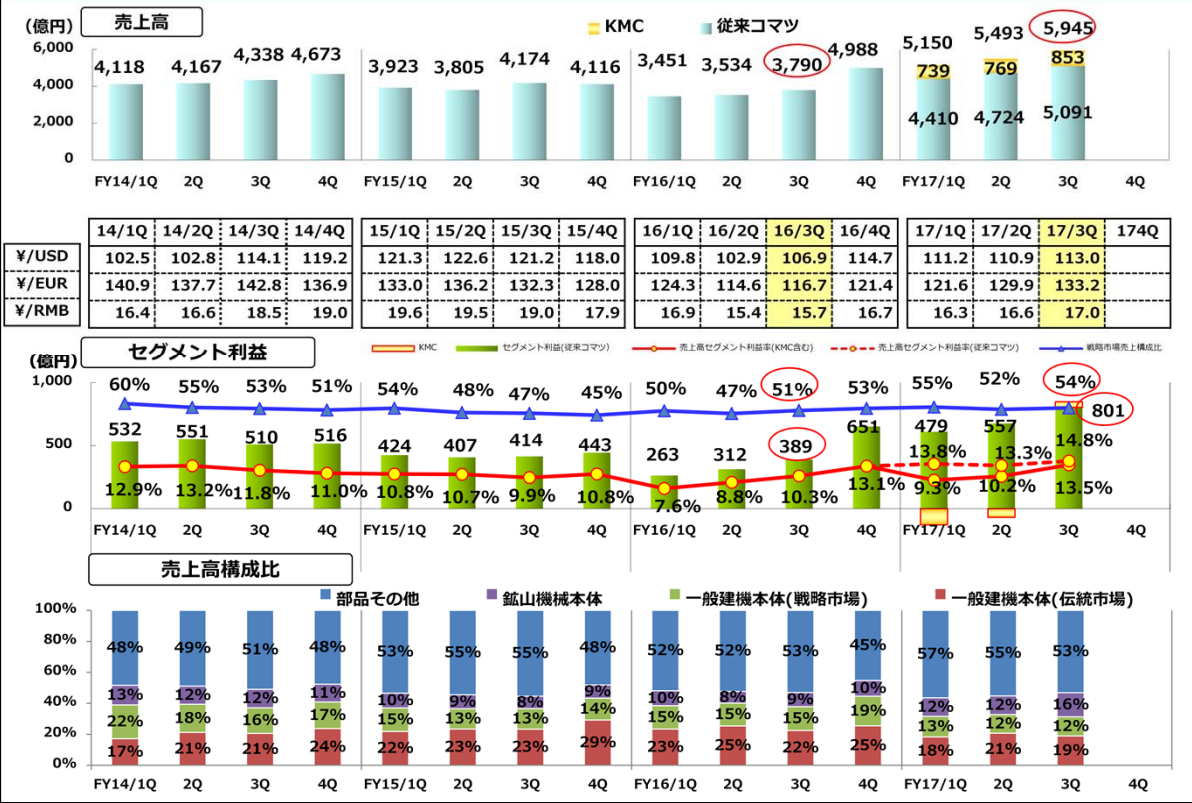


営業利益 (FY14~)

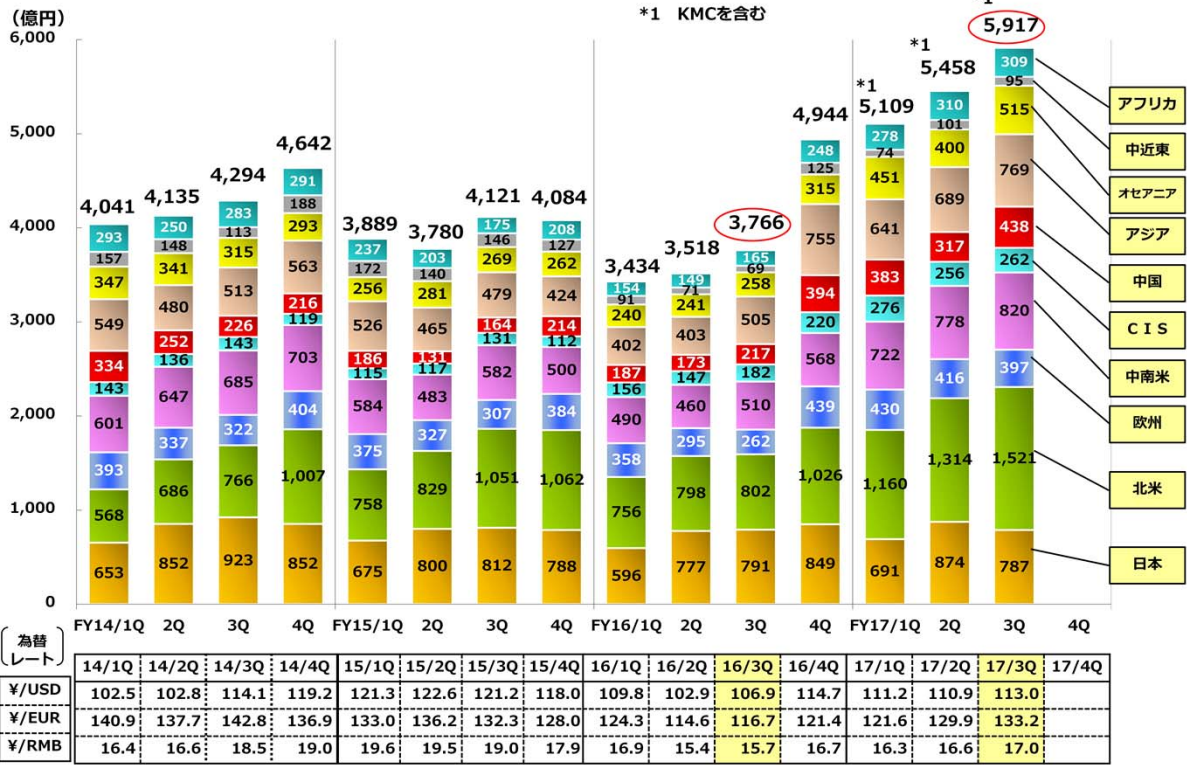




<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

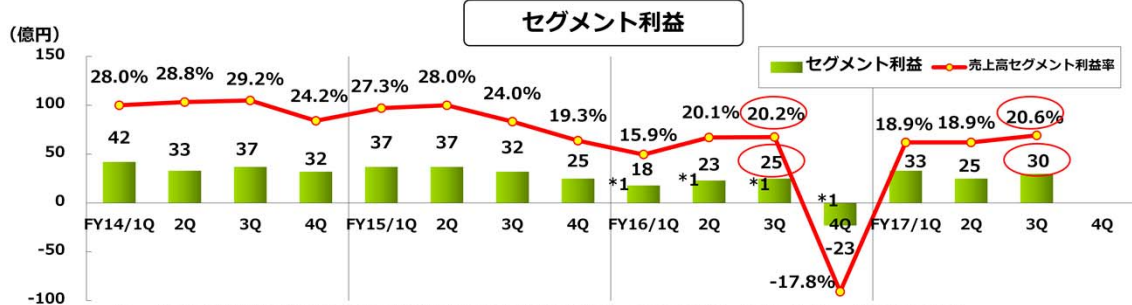




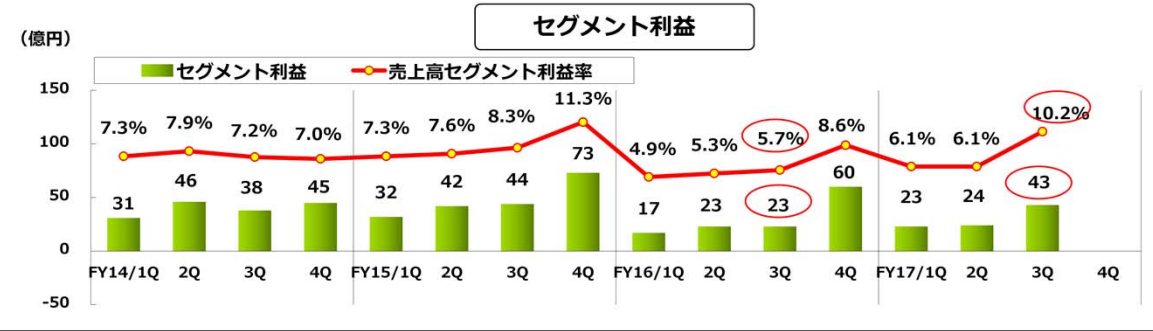
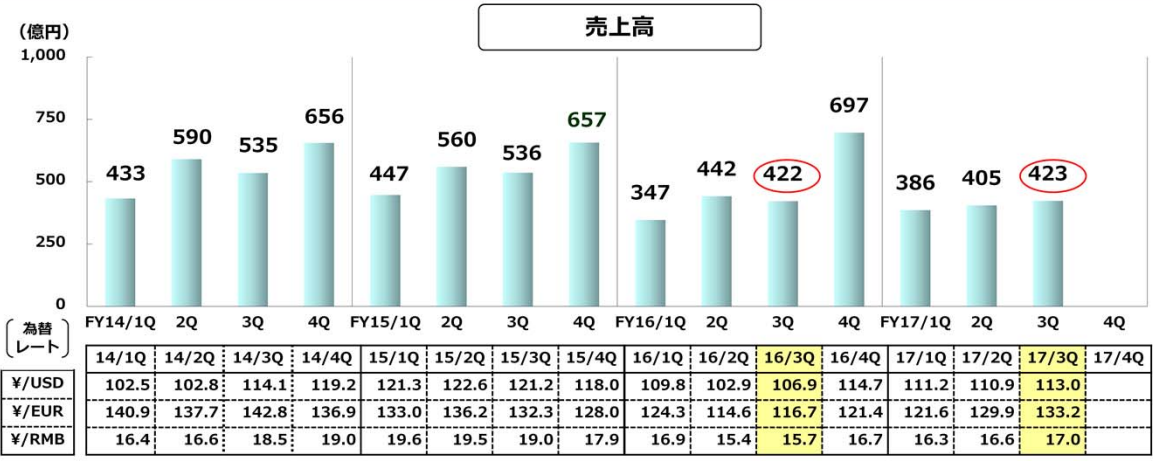


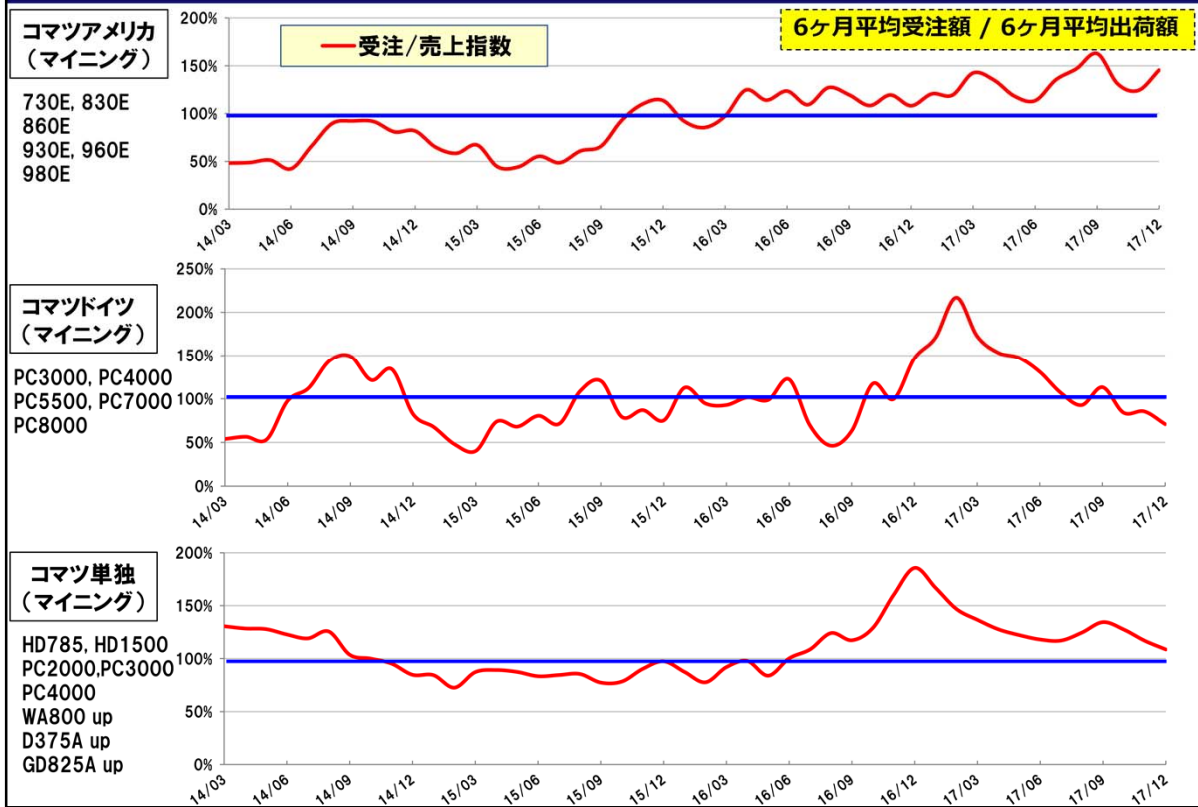


為替レート	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	



\*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)

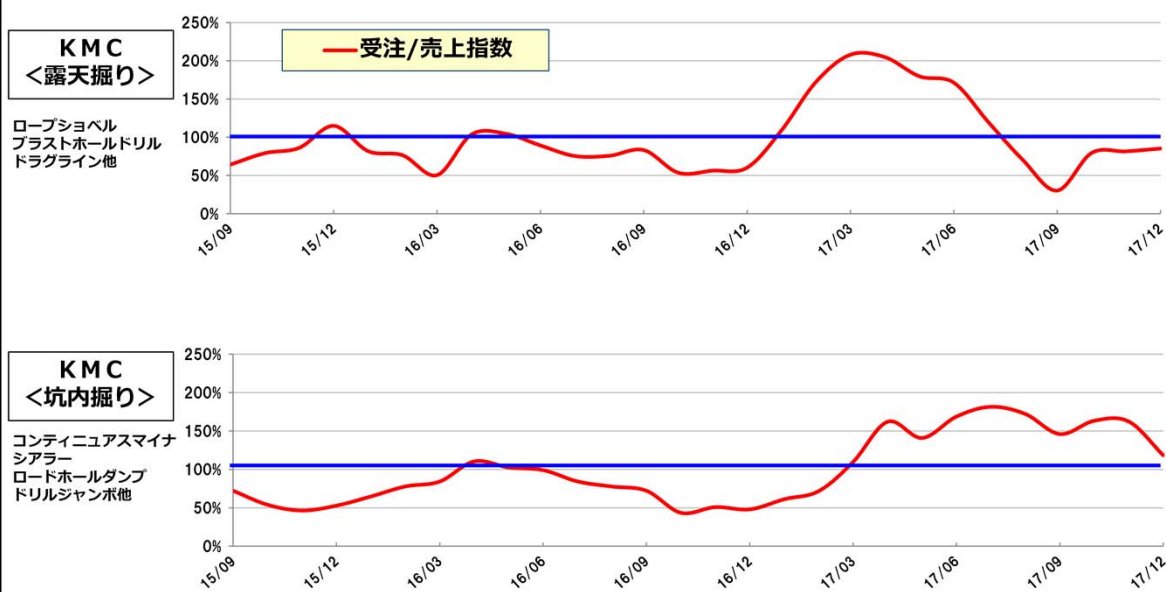




□ 鉱山機械本体の受注と売上の指数の推移を示しています。

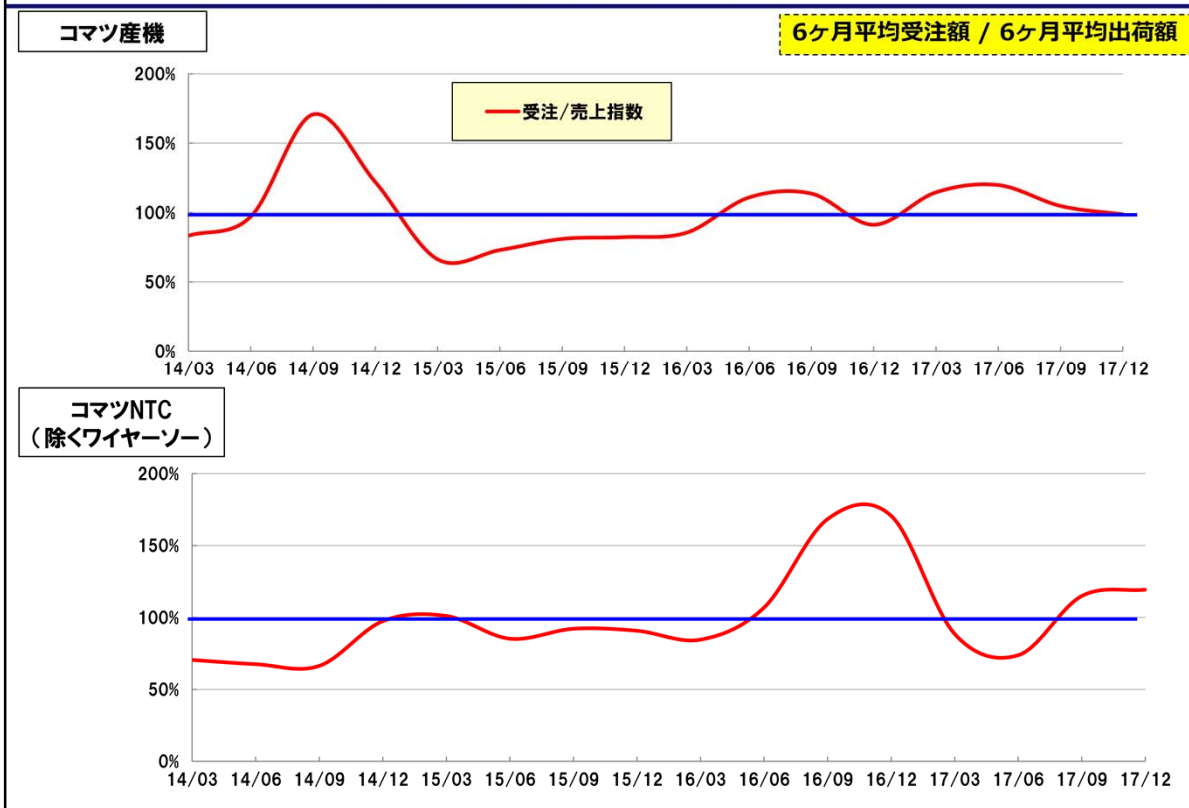
□ グラフは直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



□KMC製の鉱山機械本体の、2015年9月以降の受注と売上の指数の推移を示しています。

□上段がロープショベルやブラストホールドリルなどの露天掘り機械について、下段がコンティニュースマイナやシアラなどの坑内掘り機械についての指数の推移です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。

□グラフは直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



コマツの鉱山向け無人ダンプトラック運行システム（Autonomous Haulage System、以下 AHS）は、商用導入開始から今年で10周年を迎え、豪州・北米・南米でのAHSダンプトラックの稼働台数は、合計で100台を超えました。

これまでの10年間に稼働環境の異なる鉱山現場で実証・蓄積したAHSの安全性・生産性・環境性・システム柔軟性に対する高い市場評価を踏まえ、コマツは鉱山現場でのAHS導入を一層加速していきます。



AHS改造後付キットを搭載し  
無人稼働する830E  
(場所：豪州リオ ティント社鉄鉱山)

コマツは、カナダ Prenbec Equipment Inc.（本社：カナダケベック州、CEO：Charles MacLennan、以下「プレンベック社」）およびそのグループ会社が保有する林業機械用アタッチメント事業（QuadcoブランドおよびSouthstarブランド）を買収する契約をこのたび締結しました。2018年2月中を目処に本買収を完了する予定です。



Quadco製のフェリングヘッドを搭載したコマツの林業機械

＜プレンベック社の保有する林業機械用アタッチメント＞

【Quadcoブランドのフェリングヘッド】



【Southstarブランドのハーベスタヘッド】

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687  
 FAX: 03-3582-8332  
<https://home.komatsu.jp/>